

# 山 王

題字 柳居俊学

令和7年7月

第69号

発行 周防大島町佐連自治会

発行代表 西村隼人

TEL/FAX 0820-78-1548

編集長 桑原市蔵

TEL 0820-78-1468

印刷 (有)日良居タイムス

令和7年6月撮影



穏やかな故郷の山と海



地家室アワサンゴトンネル工事も順調

各種団体役員、クラブ・サロン世話人

西村隼人自治会長		佐連の風景		写真	
20	19	18	16 ～ 17	15	14
山王誌を担当して あとがき	御寄付御礼	生業を持って、生涯現役で生きていく	亥の子祭りの思い出	戦後のイワシ漁	佐連で収集したイワシ網関係の道具
二ホンアワサン「」の生息する豊かな海を守る	佐連山（和佐山）の開墾の話	佐連のイワシ漁	佐連・沖家室・地家室の子どもの頃の遊び	佐連・沖家室・地家室の子どもの頃の遊び	故郷へ賑やかな里山の再生を目指して
					島での子育て＆とにかく感謝の気持ちで溢れている話
					ちょっと昔の佐連の行事（写真）
					素晴らしい佐連の暮らし
					自治会役員・各種団体役員名簿
					自治会役員・各種団体役員、クラブ・サロン世話人
					熱意をもって
					風が吹きはじめた
					柳居俊学
					新山玄雄
					榮 大吾
					木村庄吉
					西村隼人
					板垣優河
					牧野啓彦
					桑原市蔵
					桑原市貢
					藤本正明
					柳居俊学
					新山玄雄
					榮 大吾
					木村庄吉
					西村隼人
					板垣優河
					牧野啓彦
					桑原市蔵
					桑原市貢
					藤本正明

令和7年度  
自治会役員名簿

\*目次\*

令和七年度が始まりました。今年度も引き続き佐連自治会長の役を務めることになりました。

長の役を続けることはないました。  
現在佐連地区は高齢化が進み、空き家が多く淋しい故郷です。コロナウイルス感染で、年間の行事も縮小されました。

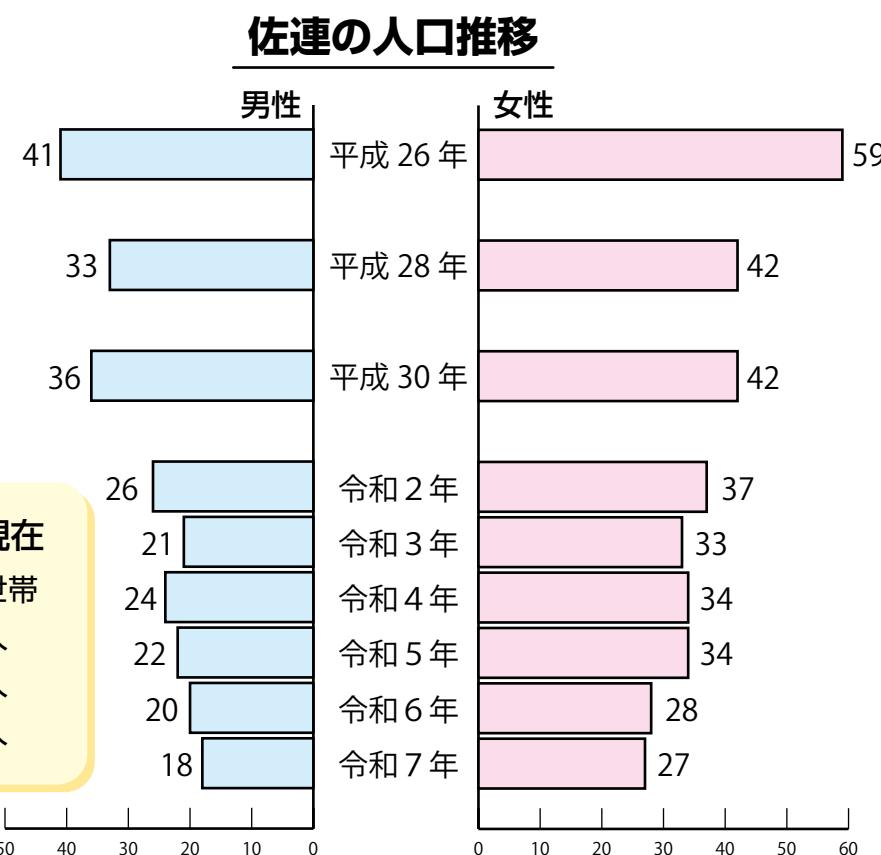
コロナが追い打ちになりましたが、一年の行事は少人員で行つて、います。

神社・墓地の清掃作業は自治会とシニアクラブで、年間四  
回行なわれる。



自治會長

# 令和七年度の佐連自治会



の建設が計画されていました。そして今、その夢プランが、関係者皆様のご尽力で「沖家室シーサイドキャンプ場」と「地家室園地拠点施設」として現実のものとなりました。「キャンプ場」は、片添ヶ浜オートキャンプ場の奥座敷として、静かで、美しい環境が多くの人々に喜ばれています。利用者によるトラブルもなく、リピートでご利用いただく

キャンプ場と拠点施設



白木半島地区  
コミュニティ協議会  
会長  
新山玄雄

# 風が吹きはじめた

白木半島地区コミュニティ協議会が発足されて今年で八年目を迎えました。当初、集まつた皆さんと共に「夢プラン」を策定し、力を合わせて、いろんな課題に取り組んで参りました。

方も多く、中にはYouTubeで沖家屋の動画を投稿されている方もいらっしゃいます。「キャンプ場」内にある「島の直売所」では、地元の方々の商品を販売しており、特に三百円という格安価格で販売している薪が、多くのお客様から好評だそうです。

「拠点施設」では、昨年一月十九日の開所以来、多くの来館者（今年二月で一三、〇〇〇人を超える）がありました。環境省側施設も地域活動・環境学習など教育関連のイベント、映画会、講演会、フォーラム、各種会

「灯会」や「か地蔵祭りの「放生会」や「カラオケ大会」など中止、縮小されていった行事が再起動され、活気が戻ってきました。

また一月には、「山口県東部海域に工コツーリズムを推進する会」の皆さん、「抛点施設」のある地蔵ヶ浦に、二ホンズイセン二万本を植え、同会主催の「水仙まつり」が、にぎやかに開催されました。

さらに今年に入り、地家室の「石風呂伝承会」の皆さんによって「石風呂の入浴体験」も何度か行われて、好評です。

再起

白木半島においても、コロナ禍で制限されていました地域活動がやっと再起動するようになりました。

人口減少・高齢化のただ中にある白木半島でありますが、ここに暮らす私たちが、共に力を合わせ、心を合わせて諸々の課題に取り組んでいけば、必ず道は開けると思

六十七代県議会議長に

向夏の候となりました。皆様にはお健やかにおすがりのことと存じます。  
今年五月、山口県議会臨時会におきまして、歴史と伝統ある山口県議会の第六十七代議長に選任をいただきました。  
これもひとえに後援会はじめ皆様の長年にわたるご指導とご支援の賜です。  
思いおこせば、私が三十一歳で東和町の町長選挙に立候補した時、佐連の皆様にこそぞつてご支援をいただき、その熱いご支援のもと厳しい選挙戦を勝ち抜いてきたこと、昨日のように覚えてります。以来変わらぬご支援をいただき、心より感謝と御礼申し上げる次第です。

**拠点施設と  
キャンプ場オープン**

これまで皆様と共に力を合わせて、様々な課題に取り組んで参りました。

ここ白木半島でも新しい動きが始まっています。二〇一七年、白木半島地区コミュニケーション協議会が発足となり、「夢プラン」が策定され、新たな地域づくりが始まりました。

昨年は「地家室園地拠点施設」が地蔵小学校跡地に、昨年には沖家室中学校グランド跡地に「沖家室シーサイドキャンプ場」がそれぞれオープンしました。

「橋長寿命化修繕計画も順調に進んでいます。次々にこの地域の貴重な資源である自然・歴史・文化と暮らしを活かす試みが、始まっています。これも佐連の皆様、白木半島の皆様の古里を想う熱意が、関係者を動かし、町や県・国を動かして、これらの事業が前進したのだと思います。

私もこれから皆様と共に、力を合わせていろんな課題に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

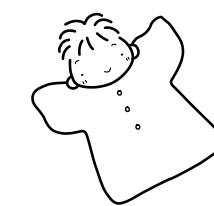


▲ アワサンゴの生息する豊かなふるさとの海…

## ②不妊治療に助成・サポートあり。

ウチはもう気づけば今年で結婚10周年。なかなか授からずほぼ諦めしていました。移住直後に不妊治療の助成を活用させていただきました。結果、不妊治療では授からずだったものの、子どもを諦めて夫婦で島暮らしを謳歌しようとした矢先にストン…

「子供さんは?」みたいなよくありがちなプレッシャー、島に来てからというものの拍子抜けするくらい一切なく、優しく包み込んでくれるような有形無形の支えがあったように思います。



## ③産後ケアがすごい。

帝王切開で出産後、「産後ケア事業」で嫁子1週間入院を延長していただき、2週間検診まで妻は病院で過ごすことができました。なんと手厚い…そして、出産後にはヘルパーさん2時間毎に30回お願いできるという…材料は畑に山とあるし海藻も売るほどあるけど食事の作り置きをサポートいただけるのが本当に本当にありがとうございます…

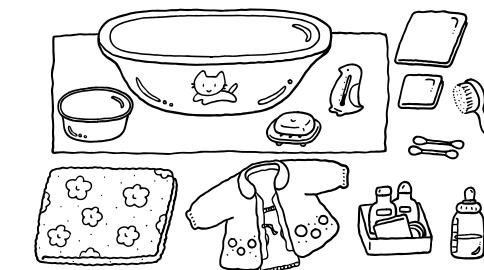
ただでさえ目の回りそうなスケジュールのひじきの漁期中に、何とかなったのはこのおかげです。



## ④子育てグッズが集結。

ほぼ全ての子育てに関するグッズがいつのまにか家に集結している。ベビーベッド、哺乳瓶、ベビーバス、チャイルドシート複数個、その他あらゆるもの…。買ったものといえば、消耗品系と、哺乳瓶スチーマー、乳児期から使えるチャイルドシートくらい…? もらい物全部買っていたらと思うとゾッとなります…。ありがとうございます。

そして色々聞きやすい自営業の子育て世代の先輩父さん母さんの存在のありがたさが沁みました。



## ⑤尋常じゃない量の有形無形のお祝い。

内祝い、お返しを準備するのに名簿を作らねばならぬレベルで、あらゆる人からお祝いをいただきました。なんと自治会からも(その後自治会や消防、公民館にこちらからもご寄付させていただきました)。

先輩方がとっても嬉しそうに声をかけてくれるだけでもありがたいのに、どうしよう、というくらい祝っていただいている。とても温かい気持ちになっています。



## ⑥ご近所や親分に助けていただいている。

妻の妊娠中、毎晩のようにご近所からオカズが届く。毎週漬物が届く。何かと気にかけてもらって本当に心強かったです。とっても助かりました。

# 素晴らしい佐連の暮らし

榮 大吾

## 島での子育て&とにかく感謝の気持ちで溢れている話



2025年の3月末に息子・春吾(しゅんご)が産されました。母子共に元気に、毎日榮家はてんやわんやですが、さらに彩り豊かな日常になりました。はやいもので夫婦で周防大島町に移住して2025年で8年目突入です。

実は今年で結婚10年目。不妊治療も経て夫婦2人で生きていこうと子供は諦めたところに授かりました。周防大島の皆さんには、出産育児の制度面でも、それ以外でも「こんなに良くして頂いていいんですか?」と思うことばかりで、あらゆる人や制度に助けていただくことばかりです。

特に、出産育児の制度面ではきっといろんな方の並々ならぬご尽力があって今があるのだろう、と思いつつ、どこかで回り回ってそういう方に感謝の念が届けば良いなど発信します。決して大袈裟なことではなく島の先輩方、そして全ての納税者の方々に感謝したいです。

### ①比較的通いやすい近隣地方都市に産科がある病院(周東病院)が残っていたこと。

島の中に産科はないものの、橋を渡って20分ほどでとても頼れる産科の先生がいる病院があります。どうやらその病院も産科がなくなりかけたことがあったらしいですが、先人たちのおかげで大病院から女医さんが2人派遣されることになったとのこと。来てくれてありがとう、残してくれてありがとうございます。多分色々人の尽力があったんだと思います。

妊婦健診が14回全て無償、かつ「一度決済して後から給付」ではなく検診後「そのままお帰りいただいて大丈夫です」というのもすごいな…。

## ちょっと昔の佐連の行事 ~2017年の山王誌より~



語ろう会旅行



お盆（精霊舟送り）



お盆（盆踊り）



敬老会



山王秋祭り



忘年会



特に思い出に残っているのがメンチカツとグラタン、そしてたくあん。美味かったし沁みました。

そして妻の里帰り中の1ヶ月はほぼ毎日ひじきの師匠の家か、ご近所の先輩の家で夕食をご馳走になりました。もうどうやって恩返ししようかしら、と感謝の気持ちが溢れています。

### ⑦産まれてからというもの、ご近所の方々があたたかく見守ってくれていることが伝わってくる。

首が座るまではね…と自分たちも大変だったから、と、たくさん温かい言葉をかけていただいたり、そっと見守ってくださっています。これは島の中でも今住んでいる集落の先輩方に特別人徳に厚い方が多いからなのかもしれないなと思っています。

ショッちゅう家に人が訪ねてきていたのですが、ここ最近は、寝不足の両親と赤子が寝ているのを気を遣っていただいている。でも道端でお会いするととっても親切に声をかけてもらえて心が温まり、寝られない日々でもとても元気がでます。

夏以降首が座ったらたくさんの方にまた訪ねてきたいですし、ハイハイしたり歩き始めたら、ぜひたくさん遊んでいただけたら嬉しいです！

うちの春吾も、もう少し大きくなったらおそらくあちこちに遊びに行かせていただくと思います！（親に似ていたらず小僧になると思います）

### ⑧近所に頼れるかかりつけ医の先輩

乳児湿疹がひどくなりかけたので、車で10分のかかりつけ医（しかも息子と同級生になるであろうお子さんがいらっしゃる）のところに車を走らせる。なんと心強い…。

医療費は高校生まで無料である。会計時に「え!? お金かかるんですか？！」と新米父母ムーブをかまして周囲からにこやかにからかわれる。

小児科は島外に出ないと存在しないのと、入院となるとさらに遠くなり片道2時間はかかるてしまう現実はありますが、心理的に距離の近い医療者がいてくれる心強さたるや…。



総じて、こんな素敵な島・集落に産まれる息子はそれだけで幸せ者だと言い切れます。

これから先、いろんな困難が待ち受けていると思いますが、楽しく壁を乗り越えていこうと思います。医療機関や検診で「頼れる人はいますか？」と何度も聞かれましたが、自信を持って「います」と答えられる幸せをかみしめています。今後とも親子共々、よろしくお願ひ致します!!

時を同じくして、白木半島は「二ホンアワサンゴ群生地」として2013年海域公園に指定され、更にそれを育んだ「白木山麓」の陸域が2016年に国立公園第2種特別地域に編入されました。それに伴い、山口県の【中間地域】を元気に!「やまぐち元気生活圏」づくりの取り組みの一環として白木半島六地区が指定され、「白木半島ミニユーティ協議会」が2017年に発足しました。協議会は環境省指導の「エコツーリズムの理念」(自然環境の保全、観光振興、地域振興、環境教育)を指針とした地域づくり「夢プラン」を熟考を重ね策定しました。プランの中心で主目標であった「地家室園地拠点施設」や「沖家室キャンプ場」が完成し、活動拠点と周辺環境が整い私達の活動が白木半島ミニユーティの方達と協同して貢献でき、親交できるようになり喜んでいます。



の入ったイオドリを引いて、生きたイワシを量り、手早く陸のイワシ釜に入れて湯がき、竹のスに広げ天日で干す。晴天で一日がかりで製品を作る。イリコが出来たら紙の袋に入れて、業者に売り渡していた。

一月～二月は寒イワシ、二月～四月は春イワシ、五月～七月はイカナゴ漁、七月～十月、特に九月より獲れる秋のイワシが一番品が良く、秋イリコと呼ばれていた。十一月より寒くなつたら寒イワシになる。戦後は一年中イワシがとれた様だ。

人力での操業は昭和三十三年～昭和三十五年以降、機械での操業になり、網船一式、加工場も全部機械化されました。

綱事件（昭和2年（1927年）三月 佐渡日日新聞）

の方が中国（満州）や朝鮮半島から引き上げ  
本家・長男・親戚の家に帰つて来ました。  
当面は部屋や倉庫を改造して住家として  
生活を始めましたが、戦後人口も増え  
人々耕作地の狭い佐連では、生活基盤農  
地が不足して、10名位で和佐山開墾組合  
を発足し、役所にも許可申請して、人力  
で開墾を始めました。農道もなく、狭い  
山道をオイコを背負い、毎日約1時間徒  
歩で山道をかよつたそうです。今思えば  
大変な苦労・重労働だつたと思います。  
1年～2年後には約2町歩開いて、芋、  
麦、野菜を収穫出来たそうです。又山土  
が粘土質で私の大叔父など元瓦職人が  
2、3名居ましたので、山の上に瓦場ま  
で造りました。後には、みかんの木も沢



# 戦後のイワシ漁

## 西村隼人

---

# 佐連山（和佐山）

## 開墾の話

山植えましたが、しかし農道も無く、農作物も現金収入も少なく、開墾者人数も減り福岡県や宇都市方面の工場に就職して行きました。

昭和2年より3年位の間、佐連山の頂付近（元兵舎跡）の東側、大積・五条の浜を見渡せる山を、開墾した話を祖父より聞きました。現在は放棄地となり、行く道もありませんが、当時を知る人に聞き、辿つて見ました。

昭和35年 開墾地は皆さんが高齢となり後継者もなく、山に行く人も道も無く、登記簿のみに記載された耕作放棄地となっています。終戦後、皆さんのが大変な苦労された事が思い起こされます。

※諸先輩のお話より記載しました。多少の違いはお許し下さい。

周防大島町立野に所在する宮本常一記念館（周防大島文化交流センター）では、宮本常一が遺した資料を保管し、展示しています。当館は国や県の助成を受けた「文化教育交流促進施設」として平成16（2004）年5月に開館し、令和6（2024）年で20周年を迎えたところです。その節目に絡め、筆者は展示室をリニューアルするために、町内各地で民具の収集活動や聞き取り調査を行いました。

佐連では、令和6年6月に西村隼人さんが使っていたイワシ網関係の道具を収集しました。写真①・②はその一部で、現在当館で展示しています。同時代に宮本が町内で撮影した写真と共に宮本が町内で撮影した写真と並べて置くことで、それぞれ道具の使用状況をイメージできるようにしました。なお、道の駅に隣接する東和収蔵庫では、西村さんの父親が昭和30年代まで

### 写真① スベ・ウキダル等



## 写真② マルカゴ・ス等



写真③ 網船（昭和25年新造 佐連岸根造船所）

資料の収集と前後し、西村さんは令和5年8月から令和7年4月にかけて、都合8回にわたりてイワシ網のことを教えていただきました。その成果は今後刊行する『宮本常一記念館調査研究報告』において発表する予定です。リニューアルした当館の展示とともに、是非ご覧ください。

周防大島町平野に所在する宮本常一記念館（周防大島文化交流センター）では、宮本常一が遺した資料を保管し、展示しています。当館は国や県の助成を受けた「文化教育交流促進施設」として平成16（2004）年5月に開館し、令和6（2024）年で20周年を迎えたところです。その節目に絡め、筆者は展示室をリニューアルするために、町内各地で民具の収集活動や聞き取り調査を行いました。

佐連では、令和6年6月に西使っていたイワシ網の船を保管しています（写真③）。西村さんの家では祖父の代からイワシ網の親方をしていました。

今回提供していただいた資料について、簡単に説明します。まず写真①の手前に見えるのはイワシ網を構成する部材のうちすべと呼ばれる網です。これはイオドリという袋の手前に付きます。すべは普通3枚からなります。すべは手前から奥のイオドリに向かって

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
5歳	15歳	25歳	35歳	45歳	55歳	65歳	75歳	85歳
10歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	90歳

30代などまだヒヨッコもひよっこ、準備体操とあらゆる土台である精神的・肉体的な筋肉づくりの時期だと思つて気合を入れて頑張ります。

まだまだ人生前半戦！100歳すぎても現役バリバリで働くことが目標です。「働きすぎて身体を壊すなよ」とお叱りを受けることも増えたので、食生活に気を使つたり筋トレやストレッチはもちろん、今では毎月必ず島の

事実、海のもの畠のものともに、単価は年々上がっています。物価高の影響も同時に受け

30代などまだヒヨッコもひよっこ、準備体操とあらゆる土台である精神的・肉体的な筋肉づくりの時期だと思つて気合を入れて頑張ります。

まだまだ人生前半戦！100歳すぎても現役バリバリで働くことが目標です。「働きすぎて身体を壊すなよ」とお叱りを受けることも増えたので、食生活に気を使つたり筋トレやストレッチはもちろん、今では毎月必ず島の

30代などまだヒヨッコもひよっこ、準備体操とあらゆる土台である精神的・肉体的な筋肉づくりの時期だと思つて気合を入れて頑張ります。

まだまだ人生前半戦！100歳すぎても現役バリバリで働くことが目標です。「働きすぎて身体を壊すなよ」とお叱りを受けることも増えたので、食生活に気を使つたり筋トレやストレッチはもちろん、今では毎月必ず島の

事実、海のもの畠のものともに、単価は年々上がっています。物価高の影響も同時に受け

漁業も農業も「就業者数」だけでもみると激減しているのですが、一方で生産金額を見ると横ばいか、切り取る断面によつては伸びています。つまり、「1人あたりの生産金額」はグイグイ伸びていることに。大きなチャンスが若手生産者にはあると思っています。

これから日本は人口が大きく減ることで需要も減少するのですが、それを圧倒的に上回るスピードで供給の方が先に減つていくのでどちらかといふと供給者側に立つていた方がこれからは得をしやすい（生産したもののが単価は上がりやすい）、というおまかせ外部環境にあります。

右も左も分からずに頑張つていると「そうじやないよ」「もつとうするといい」「今からの季節は××だ」と教えてくださつたり、時にちゃんと叱つてくださる人がいて、船やトラクターを譲つてくださる人がいて、土地を紹介してくれる人がいて、先輩がご近所で何かと目をかけ



## 亥の子祭りの思い出

私が子供の頃（七十年前以上）十一月の亥の日に、小学生が中心となり各家を廻り、亥の子を搗いて、もうそく代やお菓子を頂き、あとで六年生の先輩を中心楽ししく過ごしたことを今でも思い出します。

当時の亥の子祭の準備として、半月前に、まず山に葛（カズラ）を取りに行きます。カズラが乾燥して切れないように、海中に一週間つけて柔らかくして、亥の子石にむすび、中央に御幣を付けます。

当日六年生の力持ちが石を背中に担ぎ、皆が後について（佐連地区は東と西の二組）各家を廻りました。

現在は、佐連地区に子供が少なくなり、亥の子祭りは、秋の防災訓練の日に、日吉神社境内に集まり、大人で亥の子をつき、亥の子歌を歌い継いでいます。

佐連出身の皆様、子供の頃を思い出してください。

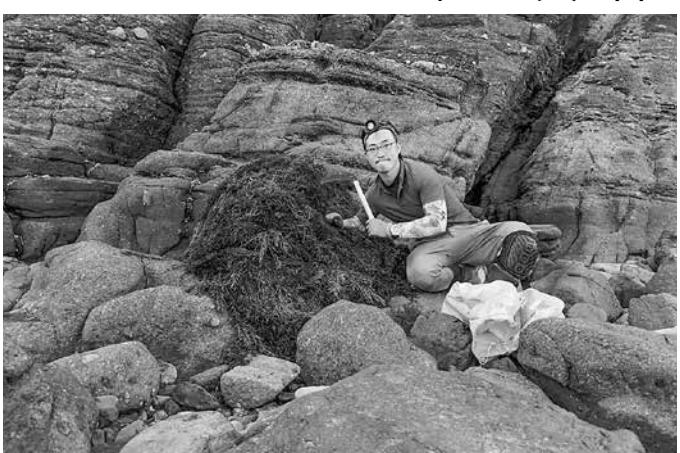
桑原市蔵記



日吉神社で亥の子と餅まき(平成28年11月)

## 生業を持って、生涯現役で生きていく

佐連 榮 大吾



▲磯でひじきを収穫。大潮のタイミングで1日で1トン以上収穫することも。12月の漁期スタートとともに新芽のひじきを加工販売用に収穫し、その後5月までは漁協を通じて市場に安定供給するひじきをひたすら収穫・天日干しています。

### 人生は九回裏まである 延長戦も…

人生を野球で例えたら1回から9回まで、下手したら延長戦まである。50代までは前半戦

整体院に通つて体のメンテナンスもしつかり行うようになります。

漁業も農業も「就業者数」だけでもみると激減しているのですが、一方で生産金額を見ると横ばいか、切り取る断面によつては伸びています。つまり、「1人あたりの生産金額」はグイグイ伸びていることに。大きなチャンスが若手生産者にはあると思っています。

右も左も分からずに頑張つていると「そうじやないよ」「もつとうするといい」「今からの季節は××だ」と教えてくださつたり、時にちゃんと叱つてくださる人がいて、船やトラクターを譲つてくださる人がいて、土地を紹介してくれる人がいて、先輩がご近所で何かと目をかけ

この時代に農業や漁業を辞めることは並の人間には無理でしょう。しかしながら、自分自身まだ大したことはできないですが、この点だけは誇れるところです。

人生を野球で例えたら1回から9回まで、下手したら延長戦まである。50代までは前半戦

ものの恩恵も受けられるのが生産者の良いところだなども思います。

「漁業や農業で食つていくことはこれから難しいよ」と言われるような難しい環境であることにはまた見方をえられれば事実ではあります。が、それはどの産業において早く飛び込んで正解だったとしみじみ感じています（自分自身まだ大したことはできません）。

さまたちの背中は輝いているし自分もそうありたいなど…。自分のやりたい仕事を納得してやつて、ということ、本当に素敵でカッコいいと思います。

その頃は並の見聞をして学ぶにつれて、この時代に農業や漁業を辞めることは並の人間には無理でしょう。しかし、実際に考え方ややつていて早く飛び込んで正解だったとしみじみ感じています（自分自身まだ大したことはできません）。

人生を野球で例えたら1回から9回まで、下手したら延長戦まである。50代までは前半戦



# 二ホンアワサンゴの生息する豊かな海を守る

藤 本 正 明

「森は海の恋人」と言われるように、豊かな海を育んでいくためには陸を整備することが必要です。そこで、二ホンアワサンゴの生息する豊かな海を守るために NPO 法人自然と釣りのネットワークは 2016 年に地家室の竹林を伐採して「アベマキの森」づくりを、そして、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会は 2020 年地蔵小学校跡地横の耕作放棄地を整備して「水仙の里づくり」を始めました。

## 8年前に植樹したアベマキの木 (2024.8.7撮影) ▶

かつてアベマキの森は耕作地でしたが、やがて放置され、そこには無数の孟宗竹が生えてその隙間は枯れた竹で塞がれ、中に踏み入ることはできませんでした。今ではほとんどの竹が伐採され、枯れた竹が取り除かれて、8年前に植樹したアベマキの木が森を造っています。



## 水仙の里 (2025.2.27撮影) ▶

水仙の里は以前みかん園でしたが、みかんの栽培を止めて雑木林になっていました。今ではその雑木もすべてなくなり、そこは 1 ha 10 段の水仙畑に変わり、今春は 25,000 本の水仙が花を咲かせ、訪れた人たちを喜ばせました。



## 園地サポーターによる 農道の清掃 (2025.2.15撮影) ▶

また、この冬には多くの園地サポーターや島内外の小学生がやって来て、水仙の里の上部にある農道を清掃しました。今後もこのような活動を続けて、みんなで二ホンアワサンゴが生息する豊かな海を守っていきたいと思います。

